

平成 30 年度第 1 回宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会 議事録

平成 30 年 6 月 26 日 (火) 15:00 ~ 16:00

宗像市役所北館 1 階 103B 会議室

出席者

委員	出欠	委員	出欠	委員	出欠
黒瀬 重幸	出	土屋 潤	出	平松 秋子	出
○大方 優子	欠	葦津 幹之	出	河口 靖志	出(代)
西谷 正	出	矢原 吉房	出	野上 和孝	出(代)
山野 善郎	出	森 弘子	出	松井 陽子	出

オブザーバー：草野 裕一（国土交通省九州地方整備局）

印は会長、 印は副会長

第 1 号議案 宗像市歴史的風致維持向上計画（第 6 章）の変更について

平松： 史跡宗像神社整備事業 観光受入環境整備事業について、支援事業名である「歴史的風致活用国際観光支援事業」には、「交付金」という言葉が使われていないが、交付金ではないのか。

支援事業名に記載する支援事業の名称については、国の担当部署と協議して記載の方法を決めている。「歴史的風致活用国際観光支援事業」については、補助金ではあるが、国と調整をして、このような記載とさせていただいた。

平松： 歴史文化資産普及啓発事業について、「事業概要」に「子ども向けの歴史学習教室を開催・・・」、「産業、消費生活、生活の変化（くらし）や地域の発展に尽くした先人の働きについて記載し・・・」とあるが、現行の『ふるさと宗像BOOK』とは別に宗像独自の副読本をつくるのか。

現在、宗像市の教育政策課が副読本を作成し市内の小学校へ配布している。今回、副読本を新しく作成するのではなく、現行のものを毎年度、新入生へ配布するために増刷し、配布する。

葦津：当日配布参考資料の事業位置参考図に 史跡宗像神社整備事業 多言語案内板等設置事業と記載があるが、具体的にどのようなものを想定しているのか。

今年度、世界遺産課にて世界遺産登録銘板と解説板を設置するとともに英語の表記を行うもの。詳細については、後日、世界遺産課より説明させていただく。

その他 宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画について

黒瀬：観光パンフレット多言語化事業について、現行は英語とあるが、将来的には中国語などの言語もありえるのか。

今年度、外国語通訳端末整備事業では、タブレット通訳端末の設置を予定しており、この端末では、中国語も含めた 10 言語を予定している。

10 言語：英語、中国語、韓国語、タイ語、ロシア語、ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、タガログ語

質問

田上：宗像市歴史的風致維持向上計画と宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画について、宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画のアクションプランとして宗像市歴史的風致維持向上計画につなげていると認識しているが、両者の関係性をもう少し詳しく説明してほしい。

基本的に宗像市歴史的風致維持向上計画が上位にある。計画の中の観光、特にインバウンドへ向けた具体的な方策として、今回、宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画の作成に至った。

田上：宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画に異論はないのですが、要するに、任意で宗像市が独自に取り組んでいくという理解でいいのか。

その通りです。

山野：今の説明に関連し、宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会の役割について、計画の進捗管理と評価があると説明があったが、「宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画」は進捗管理と評価の対象に含まれるのか。

宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画は宗像市歴史的風致維持向上計画に含まれる事業の一つである。よって、宗像市歴史的風致維持向上計画を進捗管理・評価してもらうことで、結果的に宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画を進捗管理・評価していただくことにつながるが、宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画単体の進捗管理や評価をしていただく必要はない。

山野：懸念されることは、観光整備計画で全庁的に決定された事業が、宗像市歴史的風致維持向上計画推進協議会の進捗管理・評価で拒否されるような意見が出た際にとめることができるのか、ということ。宗像市歴史的風致維持向上計画が上位にあるということであれば、推進協議会でとめることができるということになるが、行政で実際に進めている事業を推進協議会で拒否してもよいのか。そのところをはっきりさせておかないと、推進協議会と国際観光整備計画の立ち位置がはっきりしない。

観光整備計画の事業について、推進協議会で直接的に管理や評価をしていただく必要はない。

山野：歴史的風致維持向上計画の事業として観光整備計画に基づく事業について推進協議会で「悪かった」という評価になっても仕方がない、ということか。

評価の内容を直ちに取り組みに反映させることは難しいが、次年度以降事業内容を検討する際には参考とさせていただく予定である。

森：外国語通訳端末整備事業について、10言語の選出基準、根拠は何か。なぜタガログ語などが選ばれていて、ドイツ語やイタリア語などは選ばれていないのか。

言語選定の基準について、把握しておらず、この場では回答できない。基準を所管課に確認し、回答するというところでよろしいか。

森：結構です。

葦津：宗像市歴史的風致活用国際観光整備計画の観光パンフレット多言語化事業について、紙ベースのものを作成という解釈でよいのか。

世界遺産推進の際にもパンフレットを作成していたが、ほとんどが単年度で終了していた。観光客からパンフレットを欲しいと要望があった際に単年度で作成したもののので、在庫がない、というような事態が多々ある。継続してパンフレットを作成していけるような形式をとらないと後に続かないと考えているので、参考意見としてほしい。

パンフレット作成だけでなく、歴史的風致維持向上計画が一過性のものにならないように継続していくということが本計画の意義であると理解している。いただいた意見に関しては、整備計画を作る中で継続していけるように、また、国から継続して支援をしていただけるように、取り組んでいきたい。

黒瀬：宗像市歴史的風致維持向上計画が継続的に、まずは10年事業であるので、その後改定版で更に10年と続くような事業にしてほしい。

○次回の日程

平成31年1月頃